



A.A.M.T

秋臨技 だより

第100号

第100号

発行所
〒010-0013 秋田市南通築地1-1
ファーストワン築地2A
TEL・FAX:018(825)2116
E-mail:aamt-01@comet.ocn.ne.jp
一般社団法人秋田県臨床検査技師会事務所

発行人 藤田秀文
編集主幹 渡辺義孝
印刷所 石岡印刷所
秋田市手形十七流10-1
電話018(884)4771

目次

| | | | |
|------------|---|------------|---|
| 新年のご挨拶 | 1 | 県学会を終え／表彰 | 5 |
| 100号記念編集 | 2 | 表彰／訂正／編集後記 | 6 |
| 第32回検査と健康展 | 4 | | |



新年のご挨拶

(一社)秋田県臨床検査技師会 会長 藤田秀文

新年明けましておめでとうございます。

平成最後のお正月を迎えた皆様は、本年をどの様な年にしたいか様々な心境で過ごされた事と思います。

さて、臨床検査技師にとって昨年は『医療法等の一部を改正する法律（内閣提出第57号）』が施行された事による記念すべき年でありました。検体検査、遺伝子関連検査の品質・精度管理に係る具体的な基準が明確化され、精度管理責任者を医師だけでなく臨床検査技師が役割を果たせる事となりました。

また、検体検査の分類等について明確化され「人体から排出され、又は採取された検体の検査として厚生労働省令で定めるもの」となり、検体検査の根幹が明記できました。更に、医療機関の間で検体検査を委受託する場合の範囲を検体検査全般に広げる（制限の撤廃）とした通知をまとめ、11月29日付で各都道府県などに発出されました。元々は、ゲノム医療の実用化に向けた体制整備が求められている状況において、安全で適切な医療提供の確保を推進するため、遺伝子関連・染色体検査を含む検体検査の精度の確保から始まった議論でしたが、宮島議員（会長）の尽力によりここまで法整備できました。改正までに半世紀を越える年月を要しましたが、今回の法改正の経緯を見ても“政治力抜き”では法律・制度改正は進まないことは明白であり、今後の政策実現に向けて臨床検査技師連盟の存在がより重要となります。

さて、『秋臨技だより』は本号をもって100号となりました。1977年（昭和52年）に第1号を発刊して以来秋臨技の活動内容や会員情報を提供し続け、41年間秋臨技を見守ってまいりました。県学会・北日本（東北）学会・検査と健康展・法改正・叙勲・厚生労働大臣表彰・県医療功労章・会員情報・新人紹介・行事報告等様々な情報を伝え続けて、今後も私たちの橋渡しとして重要な紙面を彩る事でしょう。本号は記念誌として「親子臨床検査技師」「兄弟臨床検査技師」の会員を3組ご紹介いたします。臨床検査技師という職業を選択した子供とその親や兄弟の愛情が皆様に伝わり、希望に満ちた温かい雰囲気包まれる事と思います。

年号も変わる新しい年が更に良い年になるように祈念致しまして、発刊100号記念の挨拶とさせていただきます。

100号記念企画 「家族で臨床検査技師」

能代山本医師会病院 長谷川拓也 **親**



今回、秋臨技だより第100号記念「親子技師」ということで一筆執らせていただきます。昨夏の第100回甲子園

大会での金足農の快進撃での準優勝は秋田県人に勇気と感動をもたらしてくれたことは、まだ記憶に新しいところです。それはさておき、私も永続30年表彰を受け今までを振り返ってみますと、勤務し初めのころは慣れない環境と仕事に追われ、それだけをクリアしていく日々が続きました。しかしそれを支えてくれたのは検査課の先輩や仲間でした。段々と仕事を熟せるようになり周りを見れるようになると、技師会活動にも積極的に参加し横の繋がりが構築でき、他病院の方とコミュニケーションをとることで仕事の幅も広がり部門長も務めさせていただきました。今般、患者に対する接遇・検査説明・検体採取等といった業務移管に伴い若手、中堅、ベテランが知恵を出し合い、各医療機関で頼られる検査技師でなければなりません。一人一人が秋臨技の誇りをもって一緒に活動し、地元秋田のために共に頑張らしましょう。

子 かつの厚生病院 田村 華澄

入職当初よりかつの厚生病院に配属され、臨床検査技師としての3年目が足早に過ぎようとしています。現在私は、細菌検査と心臓超音波検査に携わらせて頂いており、経験を積んで学べる日々を送っております。検査科内の人数が少ないため、そんな私でも頼られることがあり、やりがいを感じられる反面、そこでいかにベストな結果を返せるかという緊張感もあります。限られた時間の中で患者さんとコミュニケーションをとりながら検査をし、結果を臨床側に提供する、3年経った今この言葉には大きな重みがあることを実感しております。

まだまだ分からないことだらけで勉強がしい

のあるこの職業です。たくさんの経験を積み重ねることで様々な症例にふれ、疑問に思ったことを一つ一つクリアしていくことで一人の臨床検査技師として地域の医療に貢献し、自らもそうであったようにこの仕事を次世代に繋げていければと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

(株)AKH研究センター 阿部 一之助 **親**

わたしの細胞検査士としての生活も40年を越えた。由利組合総合病院での27年間は、かけがえもなく充実したものであった。後半は増え続ける細胞診の診断と年間80件前後の解剖介助に忙殺される日々だったが、「よくぞ頑張った!」とその当時の自分を褒めてやりたい気持ちになるときがある。息子に「臨床検査技師になってみないか?」と尋ねたことがある。答えは「NO」であった。夜中に呼び出される姿を見てきた彼は、建築家を目指し都会の大手ゼネコンに就職してビル建設の仕事に就いた。

16年前、わたしは地域医療に役立ちたいと考え病理・細胞診センターを開業した。息子は会社を設立して四苦八苦しているわたしの姿が、よほど頼りなく見えて手伝う気になったのか理由は定かではないが、現在細胞検査士として一緒に働いている。

AIやITの発展により先を読む事が難しい時代になって来たものの、地域医療の担い手として志を高く、共に日々研鑽出来ればと願っている。

子 (株)秋田病理組織細胞診研究センター 阿部 博之

現在、父と同じ臨床検査技師として同じ職場で働いているということが自分でも不思議で仕方がない。というのも、幼少期に父が仕事で休みの日も深夜でも関係なく呼び出されて職場に向かい姿を見て、こんな仕事は嫌だな…と子供

【親子で臨床検査技師…2組 兄弟で臨床検査技師…1組】



ながらに思っていた記憶があり、実際に大学の建築科に進み順調に就職し建設業界で安泰な道を歩みだしていたはずだったからである。ある日、帰省し父と酒を交わしているときの「一緒にやってみないか」という一言がなぜか心に引っ掛かり、自分の思い描いていた建設業との現実のギャップを感じていた時期だったこともあり、転職することを決め専門学校に進んだ。

そして父と共に歩み始め、まずは親子であり社長と従業員という関係に戸惑いを感じました。そして、社長の息子としてやっていくことの難しさも痛感させられました。約10年、近くで父をみてきて自分はまだまだと思わされることしか今はありません。

私がいることが助けになっているのかどうかわかりませんが、いつか一緒にやってきてよかったなどお互いに思える時が来る事を願って、これからも頑張っていこうと思います。

大曲厚生医療センター検査科 柿沼 弘樹^兄

今年で臨床検査技師として4年目のシーズンとなりました。現在は病理部門で組織診断の標本作成や、細胞診検査の鏡検など日々試行錯誤しながら行っています。

さて、今年度から私の弟も臨床検査技師として同じ秋田県内で働くこととなり兄弟で秋臨技会員となりました。私と弟は年齢が4つ離れており、大学などで7年間は離れて暮らしていましたが、この度また実家で一緒に暮らすこととなりました。普段、夕食などが一緒でもあまり仕事について話すことはありませんが、2人でお酒を飲みに行ったり、当直明けが一緒の時にラーメンを食べに行ったりと仲は良いのかなと

勝手に思っています。弟は現在、生理部門で働いているということで担当部門は異なりますが同じ職種の人が身近にいることは大変心強く感じます。今後も心電図の読み方や、エコー所見の見方など、どんどん頼っていきたいと思います。

長い歴史の中で第100号という記念を迎えた秋臨技だよりや、同じく第100回夏の甲子園大会で活躍した金足農業高校野球部のように、秋田の地で長く輝き活躍していけるような臨床検査技師を目指し、弟とも切磋琢磨しながら日々精進してまいりたいと思います。これからも柿沼兄弟をよろしく願います。

弟 市立角館総合病院検査科 柿沼 智弘

今年度から秋田県臨床検査技師会の一員となりましたが、兄が先に入会していることもあり、会員の皆様から声をかけて頂く機会が多く大変感謝しております。

就職してからあっという間に6カ月が過ぎ、やっと落ち着いて仕事ができるようになってきました。生理機能検査を担当し、現在は超音波検査について先輩の協力を得ながら勉強中です。兄は検査技師として3年先輩であり、仕事で困った時には相談し、ご飯を食べに行った時には奢ってもらうなど色々な面で頼る事が多いなと感じています。

こんな私達を日々癒してくれるのが、3歳になった茶色のトイプードル(レオ)です。兄が就職した年の秋に、選びに選び抜かれて我が家に来りました。毎日家族5人の遊び相手をして大変ですが、その分おやつも5倍もらえてやや太り気味です。今では家族の一番の宝物で、ただ一緒にいて可愛い姿を見ているだけで元気をもらえます。

今回で秋臨技だよりが100号という事で歴史を感じています。私は臨床検査技師としてまだ一步を踏み出したばかりですが、これから経験を重ねて一人前に仕事ができるように精進し、専門分野について深く学んでいきたいと思えます。担当部門は違いますが、兄と肩を並べられるように頑張っていきますのでこれからも兄弟共によろしく願います。

「検査と健康展」の認知が広がる

秋田赤十字病院 佐藤 多佳子



今年度の秋田県の「検査と健康展」を、12月2日(日)に秋田駅に隣接するアルヴェで実施しました。例年になく暖かい日で、これまでになく来場者の出足が早く、開始時刻を15分前倒して10時から受付を開始しました。事前の問い合わせ電話も2週間前ころから始まり、かなりの数となりました。

実施内容は昨年度と同様で「骨密度」、「貧血検査」、「血糖・HbA1c」、「肺年齢」、「頸動脈エコー」、「血管機能検査(API、AVI)」、「臨床検査技師・医師による検査説明」、「保健師による健康相談」、「物忘れプログラム」、「パネルによる職業紹介」、「顕微鏡での標本観察」を行いました。このうち昨年度から始めた「物忘れプログラム」で希望者が一気に増えたことが今年度の特徴でした。「技師による検査説明」も行いましたが、技師が説明することに慣れてきた様子が伺えました。

来場者へのアンケート結果を見ると、検査内容や説明・相談コーナーの満足度は高く、「臨床検査技師という職業を知っている」という答えは70%ほどでした。また、「今回が初めての参加」という方は半分ほどで、リピーターが増加していることがわかりました。「検査と健康展」の認知が進み心待ちにさせていただけるのはありがたいのですが、過熱感が出始めてきているのは否めません。来たからにはできるだけ多くの検査を受けたいという方が多く、今年度は終了時刻との兼ね合いから150名で受付をメ切ることとなりました。電話や当日も予約はできないのかという問い合わせもあり、病院受診に代わる無料の機会と捉えていることがうかがえます。高齢化率日本一という本県の状況を考えるとやむを得ない面もありますが、この事業の趣旨は何なのかということは今一度考え、『臨床検査技師という職業の理解を進める機会とすること』とのバランスを取っていく必要があると感じています。

来年度の「検査と健康展」は全国大会を秋田県が担当します。注目も高まりより充実したものにすることが求められています。秋田県らしい開催のあり方とはどのようなものか今後検討していかなければなりません。今年度は県内の71名の臨床検査技師の他に、医師2名、保健師4名、メーカー・業者25名の協力を得ての実施でしたが、来年度はこれを上回る多くの方の協力を仰ぐことになると思いますのでよろしく願いいたします。最後になりますが、今年度の開催に当たり参加していただいたみなさん、本当にお疲れ様でした。ご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



第41回 秋田県医学検査学会をふりかえって



菊地 孝哉
実行委員長

第41回秋田県医学検査学会は、平成30年10月20日に由利本荘市のホテル アイリスで、『新たな挑戦に向かって～Step up! <技術・魅力・発信>』のテーマで開催され、全県から237名の会員・賛助会員・協力企業の皆様方に足を運んで頂き、お蔭様で盛会に終える事ができました。今学会の由利支部担当での開催は、5年ぶり3回目となりました。また当由利支部は、4支部のなかで会員数がかつとも少ない支部で、今学会においては中央支部と県南支部より20名の会員の皆様に学会運営にご協力を頂きましたこと、本当にありがとうございました。一般演題の発表数も26題と多くの発表があり、会場も2会場に分けて開催いたしました。そのうち本学会でデビューした技師も14名おり、発表の際にはかなり「ドキドキ」していたと思われましたが、発表時間内ぎりぎりまで活発な質疑が行なわれ、会員の皆様の検査に取り組む姿勢と向上心に感服しました。これも、職場の先輩や同僚の皆様からの、あたたかい御指導と心からの応援があったからだと思えます。午後からの公開講演Ⅰでは、谷合久憲先生に『由利本荘・にかほ、町

おこしからはじまる地域「非」包括ケア!』の御講演をいただき、地域の方々とイベント等を開催しての取り組みや、医療・介護専門職の人材の誘致にも力を注いでいる姿に感動しました。公開講演Ⅱでは、春田啓郎氏より『由利高原鉄道の取り組み』について、御講演を頂き春田氏の地域とのつながりを大事にして、各種イベントに取り組む様子と熱意に感銘を受けました。また、ランチョンセミナーやレクチャーも、4部門にして学会の充実を図りましたが、スカイレストラン(10階)にて、日本海に沈む夕日を眺めながらのウエルカムドリンクの後に2階に移動して、133名の皆様にご参加を頂きました。デビュー賞や学会学術賞～実行委員長賞の授与式に続いて、地元の民芸品や名産品の抽選会の企画も大いに盛り上がり、多くの方々に親睦を深めて頂いた事と思えます。そして、本学会に多大なご支援を頂きました協力企業や賛助会員、学会に参加してくれました会員の皆様のお蔭で学会を無事に開催することができました事に、由利支部会員一同心より感謝を申し上げます。最後に、秋田県臨床検査技師会の益々の発展と、本検査学会で各賞を受賞された皆様方の御活躍と会員の皆様のさらなる研鑽を祈念いたしまして、お礼とさせていただきます。学会へのご支援とご協力、誠にありがとうございました。

おめでとうございます



平成30年度 瑞宝双光章を当会元会長 菅原博之氏が叙勲されました。おめでとうございます。



平成30年度秋田県環境・保健事業功労者表彰を当会員の佐藤尚之氏(雄勝中央病院)が受賞されました。おめでとうございます。

秋田県学会賞

■学術賞・デビュー賞

菊池 桂舟(秋田赤十字病院)

三澤 桃子(秋田大学医学部附属病院)

淡路 祐介(平鹿総合病院)

■デビュー賞

小山 内史奈(秋田大学医学部附属病院)

石井 沙紀(能代厚生医療センター)

小野 杏子(秋田大学医学部附属病院)

浅利 沙耶(秋田赤十字病院)

伊藤 雅貴(大曲厚生医療センター)

杉山 由香(中通総合病院)

天野 拓哉(秋田赤十字病院)

渋谷 夏海(秋田厚生医療センター)

柴田 香朱美(由利組合総合病院)

藤谷 この美(秋田赤十字病院)

越後谷 卓磨(大館市立総合病院)

掲載記事の訂正について

秋臨技だより第99号に掲載した平成30年度新入会員の紹介記事に一部掲載されていない誤りがありました。追記して掲載いたします。

| 会員氏名 | 地区名 | 施設名 | (法人格略) |
|-------|-----|------------|----------|
| 小川 聖来 | 中央 | 秋田県総合保健事業団 | 中央検診センター |
| 工藤 清生 | 中央 | 秋田県総合保健事業団 | 児桜検査センター |
| 水戸 優 | 中央 | 市立秋田総合病院 | |

会員の皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

編集後記



冷え込みが厳しい中、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今回は100号を迎え記念の発行誌となりました。夏は甲子園100回大会の金農フィーバーで大いに盛り上がりました。同じ100回でこれも何かの縁だと思います。歴代の方々の功績によりこの時を迎え、これからも秋田県臨床検査技師会がますます発展して行くことを期待しております。皆様におかれましては風邪などに気をつけて、これからも秋田県臨床検査技師会を盛り上げて頂きたいと思います。

(市立秋田総合病院 渡辺 義孝)